

## 小学校低学年児童を対象にした複合型スポーツクラブのあり方について ～ 山梨県大月市の事例を通して ～

<sup>1</sup> 渡邊保志    <sup>2</sup> 山地 渉    <sup>3</sup> 澤辺直人    <sup>4</sup> 斉藤太郎    <sup>5</sup> 植屋清見

<sup>1</sup> 大月市立大月東中学校    <sup>2</sup> 大月アスリートクラブ事務局  
<sup>3</sup> 山梨県立昭和高等学校    <sup>4</sup> 小菅村立小菅小学校    <sup>5</sup> 帝京科学大学総合教育センター

On what a Sports Club of Combined Style for Lower Grade Elementary School Children  
should be ~ Through an Activity of Otsuki City in Yamanashi Prefecture ~

Yasushi WATANABE<sup>1</sup>    Wataru YAMAJI<sup>2</sup>    Naoto SAWABE<sup>3</sup>    Taro SAITO<sup>4</sup>    Kiyomi UEYA<sup>5</sup>

Abstract : The purpose of this study was to clear the actual conditions of Junior Sports Club in Otsuki City, and to suggest on what a sports club of combined style for lower grade elementary school children should be. The study was done by cooperating of chief manager of Junior Sports Club in Otsuki City, children who are belonging to Junior Course of Otsuki Athlete Club, and their parents.

In Otsuki City, almost all of Junior Sports Club are conducted as a single sports activity. Consequently, many children can do only one sports activity. Recently, Sports Club of Otsuki city, the serious problem is occurring. That is a decreasing of members of children and then it is difficult to maintain a single sports club.

There were not so good results in Perceived Competence Scale and Thought of Effects on Sports and Development of Physical Fitness for children who are belonging to Junior Course of Otsuki Athlete Club. But if some sports are offered to lower grade elementary school children suitably, they will grow more soundly.

Originally Japan Junior Sports Clubs have developed as one kind sports club till now. But now they should be change as a Sports Club of combined style for sound development of children.

key word : スポーツ少年団    少子化    複合型スポーツクラブ    小学校低学年児童    運動有能感    スポーツの効果    体力

### I. はじめに

大月市は、日本のほぼ中心に位置する山梨県の東部郡内地域の要衝として発展してきた、自然豊かな市である。平成23年度4月現在の人口は2万8千326人で、緑豊かな山々に囲まれ、山間の平地に住宅が密集する自然環境に恵まれた地域でもある。地元産業は少なく、東京方面へ通勤する者も多い。老人人口は、29.2%（H22）、幼年人口が10.3%（H22）で、少子高齢化は加速的に進んでおり、学校の統廃合も進み、現在小学校8校、中学校は4校で数年後には、小学校5校、中学校2校に統廃合されることとなっている。また、市内にある県立高等学校は普通科高校が1校、市立高校（普通科・商業科）も1校であったが、市立高校は本年度から生徒の募集が停止となった。大月市と同じような規模で、同じような状況を抱えた自治体は日本全国に数多く存在するものと思われるが、今日のような不景気な世の中から日本が元気になるためには、このような小さな自治体の一つ一つが活性化され、元気であることが必要ではないかと思われる。その土台となる重

要なことの一つは、次世代を担う子ども達の健やかな成長ではなかろうか。地域の産業の振興や町興しはもちろんのこと、地域の子どもの有り様にも関心を持って、彼らの健やかな成長のための望ましい地域づくりが、地域の大人達に今、求められていることではなかろうか。これからの日本を担う子ども達の健やかな成長を願うことは、万民の共通とするところである筈である。近年の少子化傾向が進む中で、子ども達の体力・運動能力の二極化が叫ばれて久しいが、二極化と言えば、スポーツ愛好の少年達の中にある、特定のスポーツはできるがその他のスポーツができないと言うもうひとつの二極化も見逃すことはできない。そして、子ども達の調和的な発育・発達を促すためには、単一のスポーツ種目だけでなく複数種目が体験できる複合型スポーツクラブが望ましいということが、近年になって特に言われるようになってきた<sup>1)</sup>。欧米諸国では既に、複数種目が体験できなければスポーツクラブとして認められないという状況になって来ている中、日本では未だに複合型として実施されているクラブは数

少ない。日本スポーツ少年団（Japan Junior Sports Club Association）は、本来、単一スポーツ種目の単位団から始まり発展してきたが、これからは、単一種目だけでなく複数種目が体験できる複合型スポーツクラブへと転換して行くことが望ましいと考えられる。

## II. 研究目的

本研究の目的は大月市のスポーツ少年団の実態を明らかにし、同時に大月アスリートクラブのジュニアコース（小学校2・3年生対象）の平成23年度及び過去3年間の活動を振り返り、複合型スポーツクラブのあり方についての検討を行い、小学校低学年児童を対象にした複合型スポーツクラブのあり方についての提言を行うことである。

## III. 研究方法

### 1. 調査対象

- 1) 大月市内のスポーツ少年団
- 2) 大月アスリートクラブジュニアコースに所属する児童と過去3年間に所属していた児童及びその保護者

### 2. 調査期日

平成23年5月～平成24年1月

### 3. 調査方法

- 1) 大月市内のスポーツ少年団の指導者へのアンケート調査
- 2) 児童及び保護者への質問紙法によるアンケート調査
- 3) 小学校教師への質問紙法によるアンケート調査

表1 大月市スポーツ少年団所属団員数と指導者数

NO.	チーム名	主たる活動	アンケート	所属児童生徒数（人）					常時活動する指導者数（人）							
				幼児	小1～3	小4～6	中学生	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計	
1	笹子少年野球	野球	○		6	11		17		2	1	1			4	
2	初狩少年野球	野球	○		9	8		17			2	2			4	
3	大月クラブ	野球	○		6	9		15			2	1			3	
4	真木クラブ	野球	○		5	16		21		1			2		3	
5	畑倉少年野球	野球														
6	強瀬少年野球	野球	○		1	9		10		1	1	1			3	
7	下和田少年野球	野球														
8	七保クラブ	野球														
9	猿橋クラブ	野球	○		2	11		13			1	3			4	
10	富浜クラブ	野球	○		8	13		21				2		1	3	
11	初狩ミニバス	ミニバスケット	○		4	7		11				2	1		3	
12	大月東ミニバス	ミニバスケット														
13	猿橋ミニバス	ミニバスケット	○		3	13		16	1	3		2			6	
14	真木ミニバス	ミニバスケット	○		5	5		10			1	3			4	
15	強瀬ミニバス	ミニバスケット	○		1	9		10		3			1		4	
16	鳥沢ミニバス	ミニバスケット														
17	エス・ウエイントサッカー	サッカー	○		10	25		35		5	3	7	1		16	
18	富浜サッカー	サッカー														
19	鳥沢剣道	剣道	○			4	11	15					2	1	3	
20	大月剣道	剣道	○		3	4	2	9				1	2	1	4	
21	猿橋剣道	剣道	○	1	4	14	11	30				2	4	4	10	
22	猿橋バレー	バレーボール	○		4	4		8		1		1	4	1	7	
23	大月少林寺拳法	少林寺拳法	○		3	12	4	19		4		1	3		8	
24	初狩柔道スポーツ少年団	柔道	○			4		4			1	1			2	
25	富浜柔道スポーツ少年団	柔道	○			1	2	3			1			1	3	
26	大月アスリートクラブ	陸上・水泳	○		22	41	28	91	2	1	1	1	1		6*	
27	少林寺拳法大月	少林寺拳法														
28	レインボーKIDS	マーチング	○	1	10	10	0	21				3			3	
29	砥石館空手道	空手														
30	博心館空手道	空手	○		2	2	3	7				1			1	
合計					2	108	232	61	403	3	21	14	35	21	9	98

#### IV. 結果と考察

##### 1. 大月市スポーツ少年団の実態

###### 1) 団員数及び指導者

表1は大月市内の30団のスポーツ少年団のうち、アンケート調査に協力をもらった22のスポーツ少年団の年齢別団員数と常時指導に携わる指導者数を示したものである。団員数が少なく、活動の実施が危機的状況で行われているスポーツ少年団も目立つ。また、指導者は40歳・50歳代が多く、20歳・30歳代の指導者が少ない状況であった。

###### 2) 活動状況及び団費

表2は各スポーツ少年団の日常的な練習や練習試合・公式大会の回数と団費及びその他の保護者負担に関わる経費をまとめたものである。通常練習は週3回程度が多く、練習試合や公式戦は年間平均で20回～30回で、2週間に一回程度の頻度であった。また、団費は1ヶ月平均で3,000円程度が最も多く、それ以外に「合宿」や「遠征試合に関わる交通費等の実費」や「ユニフォーム代」なども、個人持ちと

しているスポーツ少年団も多く見られた。

###### 3) 主たる活動以外の活動

表3はそれぞれのスポーツ少年団が主として実施しているスポーツ種目以外に、どのような活動を実施しているかを示したものである。

バーベキューやクリスマス会などのお楽しみ会などが多く、年一回の「スキー」や「登山」、「自然ふれあい体験」などもあるが、これらの活動を持って複合型として実施しているとは言えない状況である。

###### 4) 活動目的

図1は、各スポーツ少年団の代表者に、それぞれの団の活動目的の複数回答と自由記述での意見をまとめたもので、「子どもたちの健全育成」、「子どもたちの人間性の育成」、「子どもたちの体力・精神力の養成」を活動目的と考えて活動している団が多く、各スポーツ少年団の指導者が子どもの健全育成を中心にした活動が行われている状況が伺えた。

表2 活動状況と団費

NO.	チーム名	主たる活動	アンケート	年間活動状況			保護者の経費負担	
				通常練習 回/週・時間	練習試合 回/年	公式試合 回/年	団費 円/月	その他経費
1	笹子少年野球	野球	○	4・5	20	10	3500	合宿費12000円保険1100円
2	初狩少年野球	野球	○	2・7	15	10	2500	
3	大月クラブ	野球	○	4・3	50	10	4500	
4	真木クラブ	野球	○	4・4	20	9	3500	ユニフォーム月500円交通費月1000円
5	畑倉少年野球	野球						
6	強瀬少年野球	野球	○	3・8	20	15	3500	大会運営費
7	下和田少年野球	野球						
8	七保クラブ	野球						
9	猿橋クラブ	野球	○	4・4	20	8	3500	催し物の会費
10	富浜クラブ	野球	○	2・7			3000	慰労会・忘年会
11	初狩ミニバス	ミニバスケット	○	4・2	24	15	3500	合宿練習試合県大会交通費
12	大月東ミニバス	ミニバスケット						
13	猿橋ミニバス	ミニバスケット	○	3・2	60	20	3000	飲み物・登録参加料・保険・会場使用料
14	真木ミニバス	ミニバスケット	○	3・2	5	15	3000	
15	強瀬ミニバス	ミニバスケット	○	3・2	5	10	3000	
16	鳥沢ミニバス	ミニバスケット						
17	エス・ガリエントサッカー	サッカー	○	1・4	60	25	2500	遠征は都度精算
18	富浜サッカー	サッカー						
19	鳥沢剣道	剣道	○	2・2	6	5	1000	合宿・大会は別会計
20	大月剣道	剣道	○	3・1.5		10	2000	防具修理購入費
21	猿橋剣道	剣道	○	2・2	2	10	1000	後援会費年2000円各種行事参加費用
22	猿橋バレーボール	バレーボール	○	3・2	30	5	3000	練習試合昼食・ユニフォーム代
23	大月少林寺拳法	少林寺拳法	○	2・1.5	2	1	2500	合宿・昇級試験・大会参加費
24	初狩柔道スポーツ少年団	柔道	○	3・2	15	16	2000	遠征費
25	富浜柔道スポーツ少年団	柔道	○	1・2		3		
26	大月アスリートクラブ	陸上	○	2・2.5		15	1000	大会参加費・交通費・合宿費用
		水泳		1・3			2000	
27	少林寺拳法大月	少林寺拳法						
28	レインボーKIDS	マージング	○	1・1.5			1000	
29	砥石館空手道	空手						
30	博心館空手道	空手	○	2・2		7	4500	総本部・県連登録料

表3. 主たる活動以外の活動

NO.	チーム名	主たる活動	アソシエイト	その他の活動							
				活動①		活動②		活動③		活動④	
				活動名	回/年	活動名	回/年	活動名	回/年	活動名	回/年
1	笹子少年野球	野球	○	バーベキュー	2	合宿	1				
2	初狩少年野球	野球	○	バーベキュー	1	スキー	1				
3	大月クラブ	野球	○	バーベキュー	1~2	合宿	1	親子レク	1		
4	真木クラブ	野球	○	バーベキュー	1	合宿	1	クリスマス会	1		
5	畑倉少年野球	野球									
6	強瀬少年野球	野球	○	バーベキュー	3	スキー	1				
7	下和田少年野球	野球									
8	七保クラブ	野球									
9	猿橋クラブ	野球	○	バーベキュー	1	合宿	1				
10	富浜クラブ	野球	○	バーベキュー	1	食事会	1				
11	初狩ミニバス	ミニバスケット	○	バーベキュー	1	クリスマス会	1				
12	大月東ミニバス	ミニバスケット									
13	猿橋ミニバス	ミニバスケット	○	お楽しみ会	3						
14	真木ミニバス	ミニバスケット	○	バーベキュー	2	合宿	1	クリスマス会	1		
15	強瀬ミニバス	ミニバスケット	○	合宿	1						
16	鳥沢ミニバス	ミニバスケット									
17	エス・ウエントサッカー	サッカー	○	合宿	1	レクリエーション	2				
18	富浜サッカー	サッカー									
19	鳥沢剣道	剣道	○	自然ふれあい体験	1						
20	大月剣道	剣道	○	バーベキュー	1						
21	猿橋剣道	剣道	○	バーベキュー	1	合宿	1	登山	1	防災教室	1
22	猿橋バレー	バレーボール	○	合宿	2	バーベキュー	1	クリスマス会	1		
23	大月少林寺拳法	少林寺拳法	○	特になし							
24	初狩柔道スポーツ少年団	柔道	○	バーベキュー	1	忘年会	1				
25	富浜柔道スポーツ少年団	柔道	○	バーベキュー	1						
26	大月アスリートクラブ	陸上・水泳	○	室内運動会	1	STEP記録会	1	合宿	1	懇親会	2
27	少林寺拳法大月	少林寺拳法									
28	レインボーKIDS	マーチング	○	お楽しみ会	1						
29	砥石館空手道	空手									
30	博心館空手道	空手	○	勉強会	2~3						

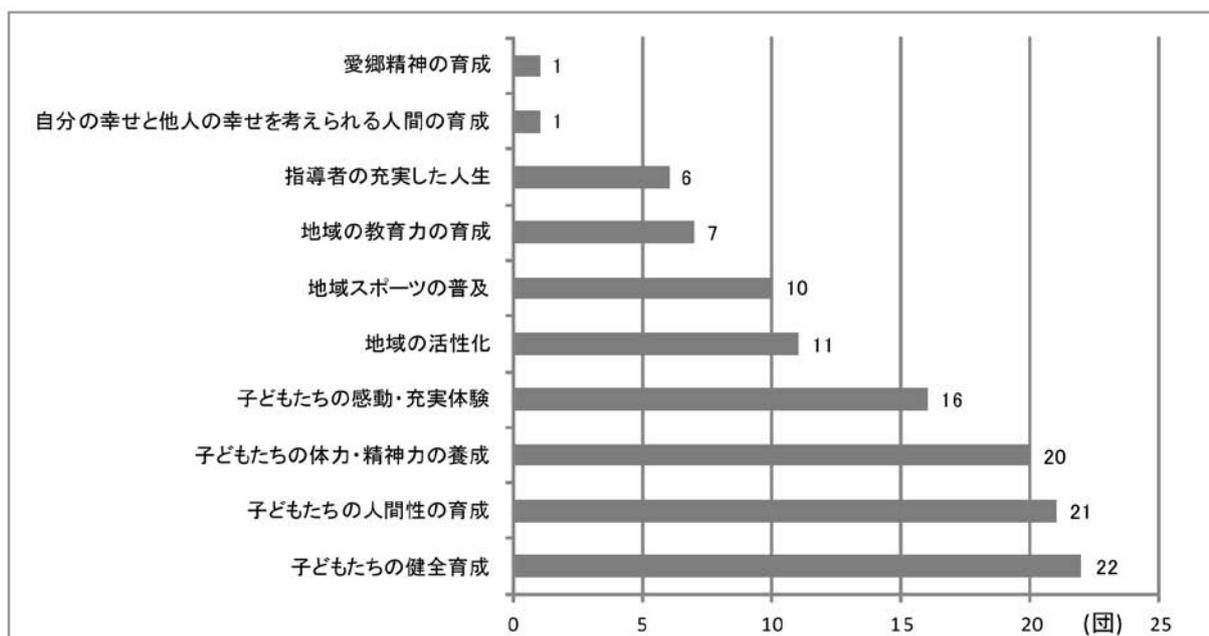


図1. 各スポーツ少年団の活動目的

5) スポーツ少年団の抱える課題と複合型スポーツクラブに対する考え

表4は、各スポーツ少年団の抱える課題と複合型スポーツクラブについてどう思うかを各団の代表者に問うた結果である。

「練習時間」、「練習場所」、「指導者」を抱える課題とするスポーツ少年団も見受けられたが、ほとんど全てのスポーツ少年団で、「少子化による団員不足」、「団員の確保」、「団員減少による活動の縮小」が上げられている。それぞれの地域で子どもの数が減って来て、単位団として成り立たない状況が増えてきている現状であった。このままでは、団員数の減少で消滅して行くスポーツ少年団も増えて行くのではないかということも危惧される。更には、指導者としても、これまで積み重ねてきた豊富な指導経験や指導実績が消滅せざるを得ないのではと悲観的に考えられるような結果を示すものであった。

一方で、複合型スポーツクラブについては、「実施の主体」や「環境条件」などの問題はあつたものの、ほとんどの代表者が肯定的であつた。すなわち、大月アスリートクラブのような小学校低学年児童を対象とした複数種目のスポーツが体験できるスポーツ

クラブの組織があつても良いのではとする状況が確認された。これは、スポーツ少年団の指導者は、子どもたちの心身の発達について少なからず理解しており、複合型スポーツクラブの意義については十分理解しているからだと思われる。更に、その必要性を感じ、実際に実施するための方法論等について検討するために、後述の大月アスリートクラブのジュニアコースを一つの例として見てみる必要があると思われる。そして、その実施のための指導者同士の連携、施設や運営面での行政への働きかけといったものが早急に望まれる。

6) スポーツ少年団代表者のスポーツの効果に対する意識

表5および図2は、各スポーツ少年団の代表者を対象に石井氏<sup>2)</sup>によるスポーツの効果をどのように認識しているかについての結果である。【意志性】とは「スポーツを行うと、努力する人間になる」、【情緒性】とは「スポーツをすると、思いやりのある人間になる」、【社会性】とは「スポーツをすると、協力できるようになる」、【身体性】とは「スポーツをすると、体力が向上する」、【阻害性】とは「スポー

表4 スポーツ少年団の抱える課題と複合型に対する考え

NO.	チーム名	主たる活動	アンケート	クラブの課題	複合型クラブについての考え
1	笹子少年野球	野球	○	チーム維持のための部員確保。	複数体験できることはよいが環境が整っていない。
2	初狩少年野球	野球	○	練習日の確保	
3	大月クラブ	野球	○	クラブ員が少ないので増やしたい	自分にあつたスポーツを見つけることができる
4	真木クラブ	野球	○	団員の確保	子どもの可能性を広げるといふ点でよい。
5	畑倉少年野球	野球			
6	強瀬少年野球	野球	○	少子化が問題。	いろいろな体験はよいことと思う。
7	下和田少年野球	野球			
8	七保クラブ	野球			
9	猿橋クラブ	野球	○	特になし	理想的だが実際にはむずかしいと思う。
10	富浜クラブ	野球	○	学年によって子どもがいないこと。	いろいろなスポーツ体験はよい。
11	初狩ミニバス	ミニバスケット	○	団員不足	自分にあつたスポーツを見つけることができる
12	大月東ミニバス	ミニバスケット			
13	猿橋ミニバス	ミニバスケット	○	団員減少。練習時間の確保。	低学年のうちにはいろいろな体験することがよい。
14	真木ミニバス	ミニバスケット	○	団員の確保。他クラブにスカウトされる。	
15	強瀬ミニバス	ミニバスケット	○	部員確保	
16	鳥沢ミニバス	ミニバスケット			
17	エス・ウエストサッカー	サッカー	○	団員減少による活動縮小。	市が主体となって市民全体でバックアップできればよい。
18	富浜サッカー	サッカー			
19	鳥沢剣道	剣道	○	団員の確保と若い指導者の育成	体力があれば複数体験も良い。
20	大月剣道	剣道	○	団員減少。	練習時間等が重複し技術が向上しない。
21	猿橋剣道	剣道	○	団員の確保。他クラブにスカウトされる。	真剣に取り組むべきだと思う。
22	猿橋バレー	バレーボール	○	入団者が少ないこと。	
23	大月少林寺拳法	少林寺拳法	○	少子化への対応。	少林寺拳法は指導システムが確立しているので難しい。
24	初狩柔道スポーツ少年団	柔道	○	部員不足	特になし。
25	富浜柔道スポーツ少年団	柔道	○	団員が少ない。柔道場がない。	体験できることはよいことだ。
26	大月アスリートクラブ	陸上・水泳	○	指導者不足	今後は非進めるべきだ。
27	少林寺拳法大月	少林寺拳法			
28	レインボーKIDS	マージョ	○		
29	砥石館空手道	空手			
30	博心館空手道	空手	○	少子化。父兄のあり方。	体験させることはよいが、一つのスポーツに集中することも大切。

ツをすることは、無駄である」などの質問からなる項目である。各項目の7項目に対して「とてもそう思う：5点～全くそう思わない：1点」の5段階評定法の、35点満点での解答結果である。体育教師については筆者<sup>3)</sup>が平成15年度に大月市及び北都留地区の小・中・高等学校の各学校段階の教師及び保健体育の教師に対して、同じ調査用紙を用いて行った結果である。両者の比較では【意志性】と【身体性】で、スポーツ少年団の指導者の方が体育教師よりも有意に得点が高く、【阻害性】得点でも、教師及び保健体育の教師をやや上回っていた。スポーツ少年団の指導者はスポーツの効果をより肯定的にとらえていることが明白にされた。

表5 スポーツ少年団代表者と体育教師のスポーツの効果に対する認識

(上段：平均得点、下段：標準偏差を表す)

	意志性	情緒性	社会性	身体性	阻害性	標本数
クラブ代表	29.36	26.41	28.68	28.59	12.59	22
	3.40	3.78	3.54	3.23	2.67	
体育教師	26.26	24.54	26.77	25.80	10.80	35
	4.25	4.41	4.33	4.52	4.40	
有意差	**	n. s.	n. s.	*	n. s.	

\*\*p<0.01 \*p<0.05

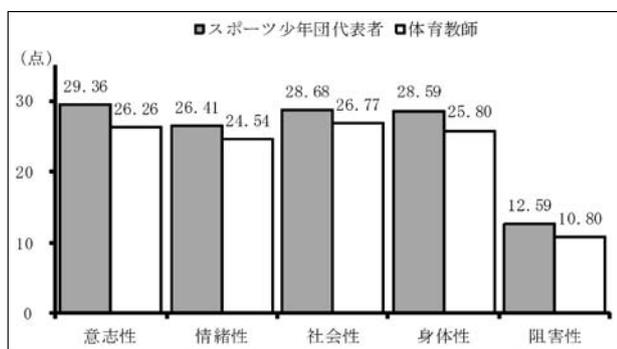


図2 スポーツ少年団代表者と体育教師のスポーツの効果に対する認識

## 2. 大月アスリートクラブジュニアコースについて

### 1) 活動プログラム

表6は大月アスリートクラブジュニアコースの年間活動プログラムである。5月から2月までの10ヶ月間、毎週1回、2時間程度、「陸上運動・陸上競技」「ミニバスケットボール」「フットサル」「水泳・アクアティック」「トランポリン」「ダブルタッチ」「空手」といったスポーツ種目を実施している。

表7は、ジュニアコースの指導者と活動場所を示したものであるが、その指導は大月市内のスポーツ少年団指導者、中学校・高等学校の教員、クラブ員の保護者や県内の大学でサークルとして活動している学生及びそれぞれの種目での援助者などによって行われている。活動場所は市内の、その他のスポーツ団体の使用と重なる状況が多々あり、必ずしも恵まれた活動ではなく、今後改善が望まれる状況にあるものの、市内の様々な場所で活動を展開することにより、多くの市民の目に触れ、子どもたちの健全育成に資する活動であることを広く知らしめることにつながっていたものと思われる。また、指導者に高校生や大学生が含まれることは、各世代間をつなぐ地域作りの柱となり得るものと考えられる。

### 2) 活動状況

写真1～写真7は、それぞれの種目の活動状況を示したものである。ジュニアコース開設当初は保護者の意識も保育園に子どもを預けるような感覚も見られたが、現在では多種目を経験できることの意義を深く感じている保護者が増えてきているように思われる。ジュニアコースは開設当初より「25名」限定で、ほぼ満杯に近い状況ではあったが、中途加入の希望者も、状況に応じて受け入れることもあった。ジュニアコース終了後のスポーツ活動について

表6 活動プログラム

#### 年間活動プログラム

年度・月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
2008	総会	陸上	ミニバスケットボール	水泳		フットサル			空手	マット運動	ミニトラ
2009	総会	陸上	ミニバスケットボール	水泳		フットサル			空手	ソフトバレー	ミニトラ
2010	総会	陸上	ミニバスケットボール	水泳	シュノーケル	フットサル	ダブルタッチ			トランポリン ミニトランポリン	陸上
2011	総会	陸上	水泳	ミニバス	水泳	ミニバス	フットサル				

活動日 毎週水曜日 18:30～20:30

会費 2000円/月(20000円/年)+保険代600円+登録料500円+クラブTシャツ代1900円

表7. 指導者と活動場所

種目	指導者	活動場所	施設使用料
陸上	本クラブスタッフ	市内中学校校庭	1750円/h
ミニバスケットボール	地域のミニバスケットボールスポーツクラブの指導者	市総合体育館	減免無料
水泳	市内県立高等学校の体育教師で水泳部顧問と部員 地域で子ども達に水泳指導をする方	県立高校室内プール	減免無料
シュノーケル フィン	スタッフの知り合いの東京のスポーツクラブの指導者	県立高校室内プール	減免無料
フットサル	地域のサッカースポーツ少年団および成年チームの指導者	勤労青年センター	減免無料
空手	隣接するU市に在住する空手道場の指導者	市内中学校体育館	減免無料
ソフトバレー	保護者で地域のバレーボールスポーツ少年団の指導者	市総合体育館	減免無料
マット運動	隣接市内に在住する中学校体育教師	市内中学校体育館	減免無料
ダブルダッチ	K市内国立大学生でサークルで取り組んでいる者	市内中学校体育館	減免無料
トランポリン ミニトランポリン	本クラブスタッフ	市総合体育館	減免無料

は、あくまでも本人がやりたいスポーツ種目をやればよいというスタンスであった。

#### (1) 陸上運動・陸上競技 (写真1)

陸上運動・陸上競技は地元の富浜中学校の校庭で行われている（雨天時は隣接する総合市民体育館で）。ミニハードルやラダーを使っての動きづくりや、各種スキップ類、短距離走や長距離走を通しての走り方などの練習で、指導は大月アスリートクラブの指導者が行っている。

#### (2) 水泳・アクアティックスポーツ (写真2)

水泳は山梨県立都留高等学校のプールで行われている。高等学校の水泳部の顧問と水泳部の部員が指導に当たっている。また、アクアティック（フィンやシュノーケリング）については、外部コーチに依頼し、指導してもらっている。子ども達は毎回、楽しそうに水泳やフィン、シュノーケリングに取り組んでいた。この活動から、毎週火曜日に、大月アスリートクラブの水泳部も始まり、記録会の開催や水泳大会への参加まで発展している。

#### (3) フットサル (写真3)

フットサルは、大月東中学校体育館にて行なわれている。地元のサッカースポーツ少年団の指導者と若いコーチが指導に当たってくれているが、同じ曜日に体育館をママさんバレーボールのチームが使用している関係で体育館の半面を使っての活動である。

#### (4) ミニバスケットボール (写真4)

ミニバスケットボールは、市民総合体育館で行われている。地元のミニバスケットボールスポーツ少年団の指導者が若いコーチと共に指導に当たっている。基本技能の練習はもちろん、トラベリングやダブルドリブルなどの細かいルールには拘らず、楽しくゲームを行うことを第一義的に行っている。

#### (5) トランポリン (写真5)

トランポリン及びミニトランポリンは、市民総合体育館で行っている。大月アスリートクラブのスタッフが指導に当たっている。子ども達の上達には目を見張るものがあり、トランポリンから全身のバランス能力が養われる様子が伺われる。スタッフの中にはトランポリンの指導のために公的な指導者資格を取得した熱心な指導者もいる。

#### (6) ダブルダッチ (写真6)

ダブルダッチは、大月東中学校体育館で実施している。サークルで活躍している大学生のグループが指導にあたってくれている。

#### (7) 空手 (写真7)

空手は、市民総合体育館もしくは富浜中学校体育館にて実施されている。隣接の市の空手道場のコーチが指導に当たってくれている。空手の基礎基本の指導が指導の中心である。



写真1 陸上運動・陸上競技の活動風景



写真2 水泳・フィン・シュノーケルの活動風景



写真3 フットサルの活動風景



写真4 ミニバスケットボールの活動風景



写真5 トランポリンの活動風景



写真6 ダブルダッチの活動風景



写真7 空手の活動風景

表8 子どもたちの感想（下線付き文章は保護者の代筆）

<陸上>

- ・楽しかった（2）。 ・ハードルが楽しかった（3）。 ・走るのが少し疲れた。
- ・ちょっと難しかった。足が速くなるように教えて欲しい。 ・もっとやりたい（2）
- ・ストレッチを含めた内容でけがの無いように練習したい。
- ・走り込みや細かい動きの運動があり、楽しかった。ボールを投げてみたい。
- ・暑いとき疲れて大変だった。 ・今までよりもうまく走れるようになった。
- ・きつかったことはありません。 ・走るのが速くなった（3）。
- ・早く走れるコツを教えてもらいうれしい。 ・走り方を教えてもらい速くなった。

<水泳>

- ・クロールができて良かった。とても楽しかった（2）。 ・またしたい。
- ・コーチの協力が良かった（2）。 ・記録証がもらえてうれしかった。
- ・タイムを計るのがきつかったけど25m泳げてうれしかった（3）。
- ・速く泳げるようになってうれしい（2）。 ・泳ぐのが楽しかった（4）。
- ・平泳ぎを教えて欲しい ・得意ではなかったが、うまく泳げるようになった。
- ・大きなプールで怖かったが、コーチがわかりやすく教えてくれた。
- ・プールが深くても25m泳げてうれしかったそうです。
- ・コーチたちが高度な泳ぎを教えてくれたので泳げるようになり、好きになった。
- ・小学校のプールより深く、潜るのがおもしろかった。 ・タイムを計れて良かった。
- ・最後に頭をなでてくれたことが親としてうれしかった。

<ミニバスケットボール>

- ・楽しかった（4）。 ・試合で点を決められたのがうれしかった（2）。
- ・試合が楽しかった（4）。 ・できなかったけど、うまくできるようになった。
- ・パス、ドリブル、シュートなどもっと時間をかけて練習したい（3）。
- ・もっと試合がしたい（2）。 ・ルールがわかるようになって楽しいです。
- ・シュートをするのがきつかった。 ・ころんだりしたけど頑張った。
- ・ミニバスの子たちが多く、もっとACの子たちだけでやりたい。
- ・ドリブルが「早いね」とお友達から言われたことがうれしかった。
- ・家にボールを持ち帰ってよく練習をしていました。

<その他>

- ・ハードルを早くやりたい。 ・ベースボールをやりたい。
- ・毎回新しいことを教わってきて、楽しそうに話をしてくれます。
- ・細かな指導をありがとうございます。 ・バドミントンをやってみたいと思いました。
- ・4年生になっても陸上と水泳を両方やりたいです。

3) プログラムに対する子どもたちの感想(2011年)

表8は、今年度、既に体験したプログラムに対しての子ども達の感想をまとめたものである。下線のあるものは保護者が代理で記してくれたものもあるが、ほとんどが子ども自身の生の声である。いずれのプログラムに対しても、満足しているだけでなく、更にもっと上手になりたいとか、速く走りたいなどの意欲的な内容が数多く見られた。

このような感想をその都度、子ども達に記してもらうことは、筆者等が提供しているプログラムが本当にクラブ員の喜びやニーズにあったものかどうかの検討や今後のプログラムの内容の改善等の面で有効な手だてともなる。

4) 体力の推移

ジュニアコースを体験した児童の活動の成果がその後の彼らの体力の向上に影響を与えているか否かの検討のために、ジュニアコース終了後に文部科学省の新体力テストの結果を分析してみた。図3は、現5、6年生男女の20mシャトルランの結果を、それぞれの年度の全国平均値、山梨県の平均値と比較したものである。2、3年生時にコースを体験し、

その後何らかのスポーツ種目を継続的に実施していることと関連していると思われるが、現5年生男女では20mシャトルランの記録は顕著に向上している。その他の測定項目でも多少の個人差は見られるものの、全般的にはほぼ全国平均値、山梨県の平均値と同様の発達傾向が得られている。

5) ジュニアコース終了後のスポーツ活動

表9は、小学校2、3年生で、ジュニアコースを体験した児童がその後どのようなスポーツ活動を行っている(性、学年、ジュニア所属年度、実施しているスポーツ活動3つまで)かを過去3年間についてまとめたものである。アンケート調査の回答数は28名の児童であった。表中の種目の後の数字は、1週間当たりの活動日数で、網掛けは、ジュニアコースに所属していた時期である。2名を除くほとんど全ての児童が、ジュニアコースを終了した後も何らかのスポーツ活動を行っている状況であった。小学校低学年の時期に複数種目を体験することがその後のスポーツ活動への関わりを促しているものと考えられる。

6) 現ジュニア児童の運動有能感

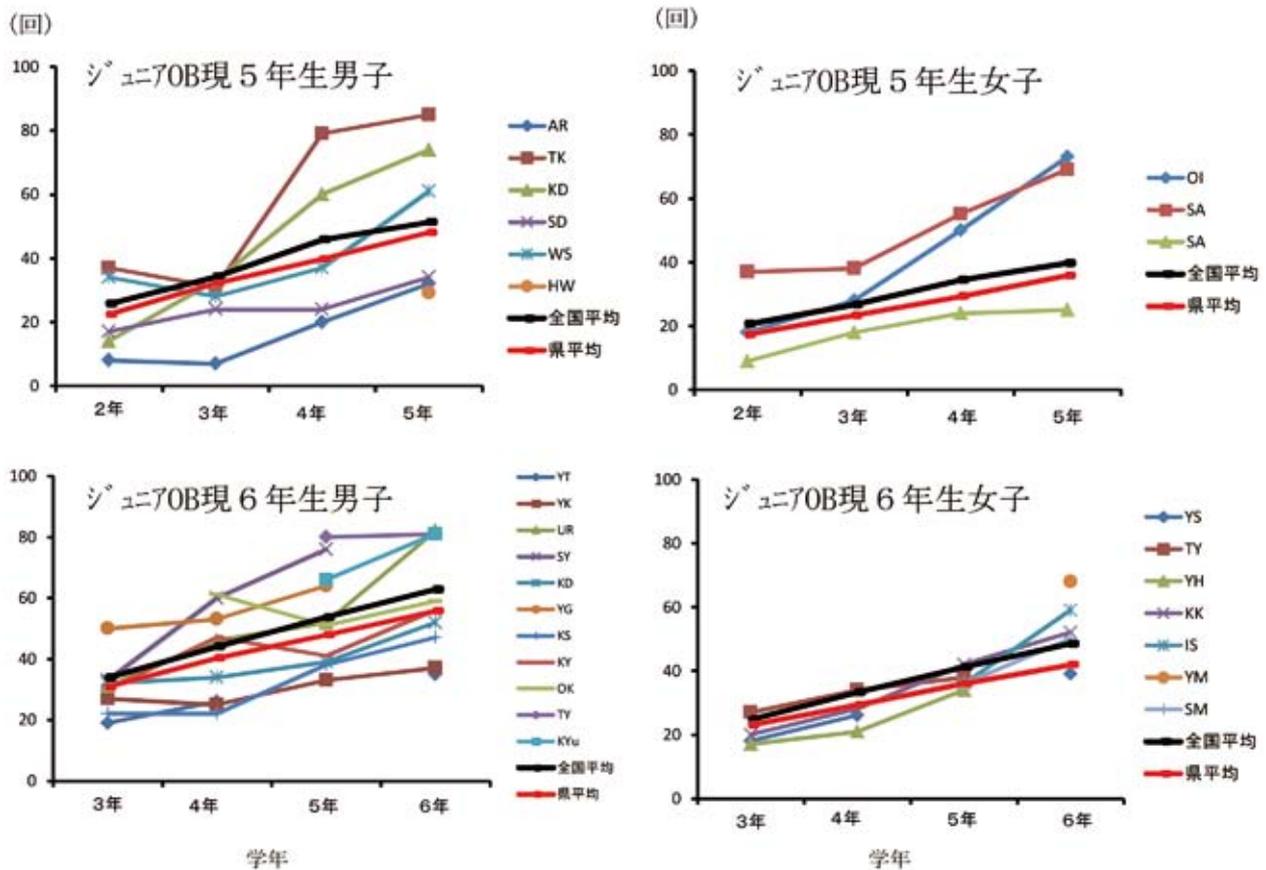


図3 ジュニアコースOBの体力の推移(20mシャトルラン)

表9 ジュニアコース体験後のスポーツ活動

番号	名前	性別	年齢	ジュニア所属	2009 1	2009 2	2009 3	2010 1	2010 2	2010 3	2011 1	2011 2	2011 3
1		男	4	2010							水泳1		
2		男	4	2010							陸上2		
3		男	4	2010							水泳1	陸上1	
4		男	4	2010							陸上2	水泳2	
5		男	4	2010							陸上2		
6		男	4	2010							陸上2		
7		男	4	2010							陸上2		
8		男	4	2010							陸上2		
9		男	4	2009 2010							水泳1		
10		男	4	2009				空手1	水泳1		空手1	水泳1	
11		男	5	2008 2009				水泳1			水泳1		
12		男	6	2008	水泳1	フットサル1		フットサル1			フットサル1		
13		男	6	2008	水泳2			水泳1			水泳1		
14		男	6	2008	剣道2			剣道2			剣道2		
15		女	3	2010							なし		
16		女	4	2010							水泳1		
17		女	4	2010							水泳1	ミニバス3.5	
18		女	4	2009 2010							陸上2		
19		女	4	2009 2010							陸上2		
20		女	4	2009 2010							水泳1		
21		女	4	2010							水泳1		
22		女	4	2010							水泳1		
23		女	5	2008	サッカー2	フットサル1	陸上1	サッカー2	フットサル1	陸上1	ミニバス5	水泳1	
24		女	5	2008 2009				陸上2			陸上2		
25		女	5	2008 2009				水泳1			水泳1		
26		女	6	2008	陸上2			陸上2			陸上2		
27		女	6	2008 2009				なし			なし		
28		女	6	2008 2009	陸上1	居合道1		陸上1	居合道1		陸上1	居合道1	

図4は岡澤氏ら<sup>4)</sup>によって作成された「小学校低学年用運動有能感尺度」3因子9項目(各項目1~5点の5段階法15点満点)を使用して、4月末(事前)と8月末(なか)の結果をグラフ化したものである。【身体的有能さ】とは、「自分の運動能力が優れているという意識を示す」項目で構成され、【統制感】とは、「自己の努力や練習によってできるようになるという意識」、【受容感】とは、「仲間や先生から受け入れられているという意識」で構成されている。そして、それらを合計したものが、「運動有能感」得点である。調査の回答者は13名の児童であったが、先行研究<sup>4)</sup>と比較して、本研究の対象の子どもたちは【統制感】得点が最も高く、【身体的有能さ】得点が【受容感】得点を上回る結果を示した。つまり、自己の運動能力、運動技能に対する肯定的認知が比較的高いことを示

す結果であった。いずれの因子においても、平均得点において「なか」が「事前」の値を下回ったが統計的な有意差は見られなかった。前半のプログラムによって、子どもたちの運動有能感が高まったとは言えない結果であったが、一年間を終了した時点で「事後」調査を実施する予定であるが、そこでの結果もあわせた分析を行い、その結果を次年度プログラムの内容に反映させて行く必要性も生じてくる可能性も考えられる。

表10 ジュニア児童のスポーツの効果に関する認識  
(上段：平均得点、下段：標準偏差を表す)

	意志性	情緒性	社会性	身体性	阻害性
事前	29.36	29.57	28.71	30.50	13.14
	5.67	5.68	5.84	4.18	4.31
なか	27.36	26.86	28.21	29.07	11.64
	6.63	5.78	5.78	4.12	4.25
有意差	n. s.	**	n. s.	n. s.	n. s.

\*\*p<0.01

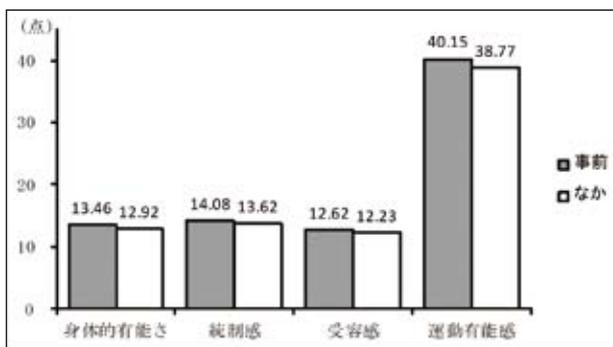


図4 ジュニア児童(現2,3年生)の運動有能感

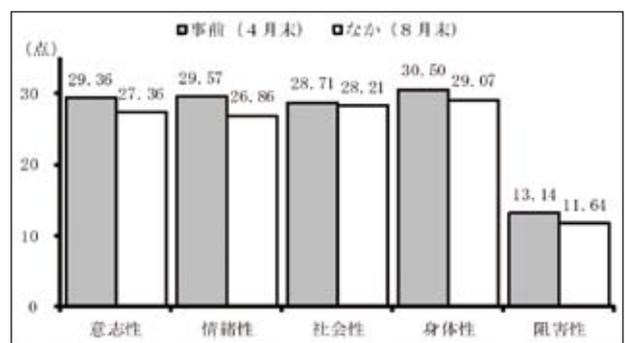


図5 ジュニア児童のスポーツの効果に関する認識

7) 現ジュニアコース児童のスポーツの効果に関する認識

表10は石井氏ら<sup>2)</sup>によって作成されたスポーツの効果に関する認識についての調査を、小学校教諭に依頼して、「小学校2,3年生」でも理解できるような文章に修正してもらったものを使用して「事前」(4月末)と「なか」(8月末)で調査した結果であり、それをグラフ化したものが図5である。

全ての因子で平均得点の低下傾向が見られたが、「事前」と「なか」との間で、有意に得点が低下したのは、【情緒性】のみであった。有意差は見られなかったものの、【阻害性】得点が低下した傾向は望ましいことである。一方、【情緒性】得点が有意に低下したことと、運動有能感における【身体的有能さ】得点が比較的高いことをあわせて考えると、運動ができることを得意がり、自己中心的行動が現れ、友達への思いやりに欠けた活動状況になってしまっているのではということが懸念される。スポーツクラブを運営する立場の人間や指導者はこのような事実を真摯に受け止め、常に指導のあり方や子どもたちの心も育てているという自覚を忘れずに、活動を展開しなければならないと考えられる。

【情緒性】得点が有意に低下したものの原因は何なのか、あるいは、小学校2,3年生の段階で、どこまで【情緒性】を求めるべきなのかなどについては指導者間の共通認識のもとでの活動内容の検討やスタッフ会議等で話題にして行かなければならない課題でもある。

表11 保護者のスポーツの効果に関する認識

(上段：平均得点、下段：標準偏差を表す)

	意志性	情緒性	社会性	身体性	阻害性
現ジュニアP	29.47	25.65	28.24	30.41	12.59
	3.97	3.76	3.72	3.12	3.34
ジュニアOBP	27.80	23.45	26.75	27.25	13.70
	3.37	3.22	4.42	4.13	3.18
有意差	n. s.	*	n. s.	**	n. s.

\*\*p<0.01 \*p<0.05

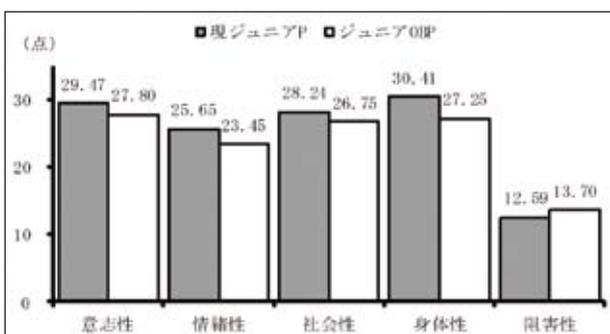


図6 保護者のスポーツの効果に関する認識

8) 保護者のスポーツの効果に関する認識

表11及び図6は、ジュニア児童及びジュニアOB児童の保護者に対して、スポーツの効果についての認識の結果である。【情緒性】と【身体性】の項目で、現ジュニアの保護者の方が有意に得点が高い結果であった。同時に行った児童への調査でも同様の結果であったが、これは保護者がスポーツクラブに何を求めているのかという事を示していると同時に、保護者の意識や理解、考え方が子どもに影響を与えているのではとも考えられるが断定するにはもう少しのデータの蓄積が必要であろう。

V. まとめ

1. 小学校低学年児童に複数のスポーツ種目を提供することは、体力や運動能力を適切に発達させるだけでなく、児童のスポーツへの関心を高め、その後のスポーツ活動への肯定的な関わりを促す。
2. 少子化が進む中、小学校低学年児童に複数種目のスポーツを経験させることは、今後ますますその重要性が高まり、普及されるべきである。
3. そのためには、地域のスポーツ少年団の指導者や行政側に、その理解を促す働きかけがなされ、より望ましい形で、小学生低学年児童に複数種目のスポーツが体験できる環境や指導体制を作っていくことが求められる。

VI. 今後の課題

今後の課題として以下のようなことが上げられた。

1. 適切な活動時間のための他クラブとの交流活動と休日の活動の展開。
2. 学校施設を活動場所として安定的に確保するために学校現場や行政への働きかけ。
3. 運営費の拡充。
4. 異年齢層の会員の受け入れのための各種プログラムの準備とその指導者の確保。
5. 活動の実態の良さを行政に伝え、その支援を得るための行政との連携を深める。

VII. 参考文献

- 1) 宮嶋泰子：第14回全国スポーツ少年団指導者全国研究大会分科会講演「スポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブ」,2008.
- 2) 石井源信：大学体育における体力及び態度の効果に関する研究, 東京工業大学人文論叢, 1980, pp.1-13.
- 3) 渡邊保志：学校体育の行われ方と教師に問われ

- る資質～山梨県東部地区の実態～，山梨県内地  
留学研究生研究論文，山梨県，2003.
- 4) 高橋健夫：体育授業を観察評価する，明和出版，  
東京都，2004, pp27-30
  - 5) 渡辺俊男：頭をねる体育，杏林書院，東京都，  
1978.
  - 6) 石河利寛：子どもの発達と体育指導，大修館書  
店，東京都，1981.
  - 7) 久保田競：脳の発達と子どものからだ，築地書  
館，東京都，1981.
  - 8) 高石昌弘，樋口満，小島武次：からだの発達，  
大修館書店，東京都，1982.
  - 9) 植屋清見：山梨大学教育学部学生の体力，運動  
能力および運動，スポーツ，体育に対する意識，  
態度，行動に関する研究，山梨大学教育学部研  
究報告第40号，1989, pp.114-123.
  - 10) 植屋清見：小学校・高学年児童のスポーツ，体  
育に対する意識，態度に関する研究，山梨大学  
教育学部研究報告第42号，1991, pp.129-136.
  - 11) 植屋清見：小学校教師の体育の授業の捉え方及  
びその指導力に関する研究，山梨大学教育学部  
研究報告第47号，1996, pp93-104.
  - 12) 植屋清見，小河内淳司：小学校教員の小学校体  
育及び体育の授業に関する実態，山梨大学教育  
人間科学部研究紀要No.5，2000, pp13-24.
  - 13) (財)日本体育協会日本スポーツ少年団：スポー  
ツ少年団認定員のためのテキスト，株式会社  
三集アド，東京都，2005.
  - 14) 小野清子：青少年のスポーツライフデータ，株  
式会社 日本パブリシティ，東京都，2010.
  - 15) 小野清子：子どものスポーツライフデータ，株  
式会社 日本パブリシティ，東京都，2010.